

検討対象物質の概要

物質名	主な用途	生産・輸入量	管理濃度	産衛学会、ACGIH	その他
インジウム及びその化合物	(インジウム) 銀ロウ、銀合金接点、ハンダ、低融点合金、液晶セル電極用、歯科用合金、防食アルミニウム、テレビカメラ、ゲルマニウム・トランジスター、光通信、太陽熱発電、電子部品、軸受金属、リン化インジウム結晶の原料 (リン化インジウム) InP単結晶の原料 (酸化インジウム) ITO用原料 (三塩化インジウム) 透明電極材料用原料 (水酸化インジウム) 酸化インジウム製造用原料、硝酸インジウム、硫酸インジウム製造用原料、電池電極材料	(インジウム) 生産量：70トン(2009年) 輸入量：215トン(2009年) リサイクル：543.6トン (2006年)	未設定	○ACGIH: 0.1mg/m ³ (インジウムとして)(1969年)	IARC(国際がん研究機関):リン化インジウムとして2A(ヒトに対しておそらく発がん性がある) 「インジウム・スズ酸化物等の取扱い作業による健康障害防止に関する技術指針」(平成22年12月)における実現可能なばく露低減対策の目標濃度として0.01mg/m ³
エチルベンゼン	スチレン単量体の中間原料、有機合成、溶剤、希釈剤	排出・移動量：17,138 t (2009年度) 輸出量：2,198 t (2009年)	未設定	○日本産業衛生学会:許容濃度:50ppm(2001年) ○ACGIH:20 ppm(2011年) ACGIHは、刺激、臓器障害及び聴力低下の潜在的リスクを最小化するために、20ppmのTLV-TWAを勧告	IARC:2B(ヒトに対する発がん性が疑われる) ACGIH:A3(動物実験では発がん性が確認されたがヒトの発がんとの関連が未知の物質) 日本産業衛生学会:2B(ヒトに対しておそらく発がん性がある物質で、証拠が十分でない物質)
コバルト及びその化合物	(コバルト) 磁性材料、特殊鋼、超硬工具、触媒 (塩化コバルト) 乾湿指示薬、陶磁器の着色剤、メッキ、触媒の製造、保健用医薬品、毒ガスの吸着剤 (硫酸コバルト) コバルト塩の原料、蓄電池、メッキ、ペイント・インキの乾燥剤、陶磁器の顔料、触媒	(コバルト) 生産量：1,332 t(2009年) (塩化コバルト) 生産量：情報なし (硫酸コバルト) 生産量：4,000t(2009年)	未設定	○日本産業衛生学会: 0.05mg/m ³ (Coとして)(1992年) ○ACGIH:0.02mg/m ³ (Coとして)(1994年)	IARC: 金属コバルト(炭化タングステンとの合金を除く)及びコバルト化合物については2B コバルトと炭化タングステンとの合金については2A